

8-7		主題	改善の見られたむせ込みの症例	
ケアの質の向上		副題	東洋医学（中医学弁証論治）からの試み	
手当て				
研究期間	24ヶ月	事業所	特別養護老人ホーム 練馬高松園	
発表者：長瀬 一幸（ながせ かずゆき）			アドバイザー：	
共同研究者：リハビリ委員会				
電話	03-3926-8341	メール	rehabili@tfk.or.jp	
FAX	03-3926-7872	URL	http://www.tfk.or.jp	

今回発表の事業所やサービスの紹介	当園は大正8年に設立した社会福祉法人東京福祉会が、平成12年4月に介護福祉施設を開設し、デイサービス42名（一般30名・認知12名）特養97名、ショートステイ13名、地域包括支援センター支所、在宅介護支援センター、居宅介護事業を併設した今年で開設11周年となった高齢者福祉施設です。練馬高松園経営理念「私たちの願いは利用者の笑顔、家族の笑顔、職員の笑顔、そして地域の信頼です。」
------------------	---

<p>《研究前の状況と課題》</p> <p>誤嚥から肺炎に、そして胃ろう、退所となる利用者様は少なくない状況にありました。そこで、少しでもその状況を改善出来れば、施設生活が安楽で自分らしく生活していただけるのではないかと思い、ケアカンファレンスを機に東洋医学（中医学弁証論治）的試みを開始しました。</p> <p>今回の症例Aさんは、むせ込みに対し、東洋医学（中医学弁証論治）的治法の徒手療法を行い改善の見られた利用者様です。</p> <p>平成16年入所、平成19年5月頃より、夜間独語、食事時のむせ込みが見られるようになっていました。その後、微熱や発熱が頻回にみられるようになり、入退院を繰り返していました。その入退院を繰り返していた翌年2月までの10カ月間に、施設に帰園されていた間の熱発日を合計すると104日間あり、状態が不安定であったことが伺えます。</p>
--

<p>《研究の目標と期待する成果》</p> <p>Aさん：東洋医学（中医学弁証論治）の試みから、Aさんの熱発状態を①加齢及び活動量の低下、慢性久病による腎虚、脾虚ならびに受納作用の失調（むせ込み）、②腎不納気による誤嚥、肺の気逆症となり内傷性咳嗽を引き起こしていたと判断（症：肺腎陰虚）し、マッサージ及び徒手療法の施術（方：関衝、復溜）を行い、熱発状態の安定をはかりました。</p> <p>この症例により、「むせ込み」と肺機能との関連を伺えることができ、「むせ込み」のある利用者様に対し、肺機能を向上することで、「むせ込み」改善につながるのではないかと考え、簡単にできる《摂食手当て療法》を考案し、むせ込みのみられる、Bさん：に施術を試みました。</p> <p>その結果、実施回数の約半数において、むせ込みの改善がみられました。</p>
--

《具体的な取り組みの内容》

《摂食手当て療法》の具体的な内容は、「肺嘘」という肺の機能を刺激する穴を選択し、摂食前、その穴に7分以上手を当てる事で、その「手当て療法」を介護職員に指導し実施しました。

対象者は、改めて個々に弁証するのではなく、誰もが判断できるよう介護職員によりむせ込みのある利用者様をリストアップし行いました。

なお、勤務上の都合から、一職員が利用者様に長く関われない事もあり、日常業務に差し支えない範囲で行いました。

Cさん：日によりむらがあるが、日常3～4回のむせ込みが見られ、また覚醒度が低く傾眠傾向の利用者様です。
朝食のみの実施

Dさん：水分で毎食必ずむせる利用者様です
昼食のみの実施

Eさん：毎食1～2回のむせ込みがあり、溜込み吐き出しのある利用者様です。
夕食のみの実施

Fさん：毎食3～4回、顔面が紅潮するほど激しいむせ込みのある利用者様です。
昼食のみの実施

《取り組みの結果と評価》

Cさん：朝食のみの実施、33回の実施 21回に改善見られ、覚醒度の低い時は効果見られず

Dさん：小脳出血などあり身体状況安定せず、改善見られず。

Eさん：実施時は改善し食事量増加 1/2→2/3・全量 溜めこみ改善し、吐き出し軽減

Fさん：職員配置などにより、8回のみの実施。その内4回の実施にて、むせ込み・溜めこみ無く改善が見られました。

《まとめ》

「むせ込み」予防として、肺の生理機能が大きく関わりがあることが伺え、肺の機能に刺激を与えることによって、約半数に於いて改善が見られた。また、改善の見られた利用者様には、呼吸力・去痰力（痰切れのよさ）のアップに繋がったように思います

しかし、基礎疾患が進行中など安定していない時など・摂食機能低下・易疲労性がある場合は改善は見られない事が分りました。

今後も、少しでも施設での生活を維持できるよう沢山の課題に向けて更なる研究が必要と思います。

《参考文献》

上海中医学院編（1983年4月第5刷）

『中医学基礎』 発行所 燎原書店

《提案と発信》

施設医療の中でも漢方薬が普通に使われる中、生活の中に置いて東洋医学からの応用があってもいいのかなと思います。施設の中で、利用者様の現場に於いて簡単に出来るメソッドがあれば、ケアのスキルアップに繋がるのではないかと考えます。

【メモ欄】